

## 第3回千倉地区学校再編検討委員会 会議録

日時 平成24年8月31日(金)  
午後7時から午後9時00分まで  
会場 千倉保健センター3階機能訓練室  
出席委員 23名  
欠席 大川委員  
傍聴人 6名

### 1. 開会

### 2. 委員長挨拶

お疲れでしょうが、学校を編成するという大きな仕事です。御検討お願いします。第2回の会議の最後はスケジュールが出まして、そのスケジュールについて話し合いをしました。ただ、その時の確認として、28年度に小学校を立ち上げたい、次の年、29年度には幼稚園と保育所を一緒にした形をつくりたいという教育委員会の考え方、あるいは審議した計画が出ております。これを目標にして、あと、細かい件について、御協議いただきまして検討を進めたいと思っています。御協力をお願いします。

### 3. 教育長挨拶

私ども、第2期ということで、千倉地区、丸山地区、和田地区の学校再編で、いろいろ御協議をお願いしています。解決しなくてはいけない一番大きな問題は、子供が少なくなっていく中で、学年2クラス規模の学校を出来ればつくっていききたいというのが大きな目標となるわけですが、一昨日、丸山地区・和田地区の合同会議が開かれまして、丸山中学校の校舎を使って、26年の4月1日の開校を目指して、丸山中学校と和田中学校については進めていこうと結論が出ました。小学校につきましては4校一緒という方向性は確認出来ているわけですが、学校をどこに新しくつくるかという問題があつて、何年度開校とか、まだちょっと協議が必要な状況になっています。千倉地区におきましても、今ある施設は出来るだけ使っていく、あるいは、津波とかそういったものの心配のない所に保育所、幼稚園、小学校及び中学校をつくっていこうというのは同じ条件です。いろんな条件が重なって行く中で、皆様方にいろいろ御意見をいただきたいと思っています。最初に申し上げたように、学年2学級の規模の学校をということで、そういう面での、子供たちの環境をより良くしていこうというのがあります。私どもとしては正直なところを申し上げれば、子供の数が非常に早いペースで減っており、可能な限り新しい体制を作っていきたいとは思っていますが、いろんな問題もあるかと思しますので、皆様方の慎重な協議をいただいた上で、結論を出していただければと思っております。今日が8月最後ですが、この7月、8月の中で七浦小学校、忽戸小学校及び朝夷小学校、それぞれの幼小PTAで説明会を開いていただいて、私どもの考え方を説明しました。その後意見集約をしたようで、PT

A役員の皆様ありがとうございます。今までもそうでしたが、また今後も「オール千倉」という立場で、御意見いただけますよう、よろしくお願いいたします。

#### 4. 報告

事務局

前回の第2回検討委員会の内容について報告させていただきます。第2回の学校再編検討委員会を平成24年7月2日に行い、この時の出席委員数は23名となっております。議題の1号として「千倉地区の幼稚園及び小中学校再編案について」事務局から説明をさせていただきました。

要点のみを述べさせていただきますと、幼稚園については、平成26年度から七浦幼稚園・忽戸幼稚園・朝夷幼稚園の3園を統合し、園舎は朝夷幼稚園を使用する。その段階では、健田幼稚園は現行のままとしますが、平成29年度から朝夷幼稚園と健田幼稚園の2園とちくら保育所を統合し、幼保一体化施設を開設することに向け、平成27年度から準備に入ることを提案をさせていただきました。

また、小学校については、平成26年度から七浦小学校・忽戸小学校・朝夷小学校の3校を統合し、校舎は朝夷小学校を使用する。その段階では、健田小学校は現行のままとしますが、平成28年度から朝夷小学校と健田小学校の2校を統合し、校舎は健田小学校を使用することの提案となっております。

なお、千倉中学校については、現行のとおりとすることとしております。

これらの提案について、委員さんからいろいろなご意見をいただきました。結果的には大きく3つに分けることが出来ます。1つは、2段階での統合ではなく、1度に4校を統合させ健田小学校を使用する考え方となりますが、平成26年度に統合するには教室数が足りないため、現状の校舎のままでも児童が入りきれぬ平成28年度からの統合になることが考えられます。この場合は、七浦小学校や忽戸小学校が複式学級のままとなりますので、その辺をどの様に考えるかが問題となっています。2つ目は、七浦小学校と忽戸小学校を平成26年度から健田小学校に統合させるという考え方で、3つ目は事務局からの提案どおりとなります。なお、保護者の方々にも様々な意見がある中で、各小学校のPTAにおいて再編案を説明した方が良いということとなり、7月下旬から順次説明会を実施しているところであり、最終は9月3日の健田小学校の予定となっております。

また、提案についての質問の中で、2段階で統合すると「校歌・校章や体操服などが無駄になるのではないか」との御意見がありましたが、これにつきましては、1つの考え方として、七浦小学校・忽戸小学校・朝夷小学校の3校が統合した時に校名を仮に千倉小学校とし、校歌や校章を新しいものにして、その後に健田小学校と統合した時でも、そのものを使用することも可

能であることや、体操服などについては、一気に新しいものにするのではなく、順次切り替えていくことも考えられることなどを説明させていただきました。

また、スクールバスについては、朝夷小学校の入口が狭いことから大型バスでなく、中型バスでの対応などについて説明をさせていただいておりますが、これらの詳細につきましては、再編することが決まった段階でそれぞれ専門部会を設けて検討していくことになることの説明をさせていただいております。

以上が第2回会議の報告となりますが、会議録を事前に配付させていただいておりますので、本日の会議にて前回の会議録について御承認をいただき、市のホームページに掲載したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

続いて、配付資料の確認と説明。

前回の会議で、できれば小学校の統合直前の児童数による必要面積を示していただきたいとの御意見をいただきました。調べさせていただきましたが、学校教育法によりまして、小学校の設置基準については、児童数に応じた校舎及び運動場の面積の最低基準が示されており、個々の教室の面積までは定められておりませんでしたので、本日は特に資料等の準備等はしてありません。しかしながら、その他の部分で、基準等が示されていることも考えられますので、引き続き、調べさせていただきたいと思っておりますので、御了承いただきたいと思っております。なお、校舎と運動場の基準面積につきましては、現状の校舎や運動場のままでも足りる計算となっております。

事務局

それでは、教諭数比較について説明いたします。教諭と申しますのは、いわゆる、学級担任をする先生方です。小学校の場合に学級数によって配置される教諭の数が決まっています。基本的にはこのサイズの学校ですと、学級数プラス1という教諭の配置です。すなわち6学級ある学校は7人の教諭という、そんなふうになっています。再編しない場合の表で、平成24年度「七浦9」というふうになっています。これを取り上げて説明しますと、現在、七浦小学校1年生から6年生まで1クラスずつで6学級。特別支援学級が2クラスありますので、全校では8学級の学校です。したがって、プラス1で9名の教諭。忽戸小の場合は現在、4年生と5年生が複式学級の人数となっておりますので、4年生、5年生だけで1学級という数え方をしますから、1年生から6年生までは5学級、特別支援学級が2学級ありますので、合計で7学級。したがって、配置される教諭数は8人。この表に示したのは基本的に学級数から出てきて、必ず配置される教諭の数。実際にはその年度限り、その年度についていろいろな事情を勘案してプラス一人だとか二人だと

か配置されるケースもございますが、七浦、忽戸及び朝夷小には今年度そのような配置はありません。

平成24年度健田小の教諭の数は12名となっておりますが、実際には14名の教諭が配置されております。これは先ほど申し上げましたように、学級数に応じて必ず配置される教諭の他に、基本的には、その年度限りでいろいろな事情を勘案して、さらにプラスというような教諭の配置が2名、今年もございます。具体的には言語という指導をするための教員が1人、少人数の指導を進めるための教員が1人。合わせて2人いますので、ここには12という基本数のみを示しましたが、今年度、健田小は実際には14名配置されております。

それから「28年度以降は特別支援学級担任を含んでいない」ということで、28年度辺りになりますと、特別支援に在籍する子供の数がどのくらいかを予測するのが困難ですので、あえて、すべての部分から算入しないでここに掲げました。見通しとしては、このような再編がされた場合におそらく特別支援学級は2学級配置されていくであろうという見通しはあります。そうなった場合には、ここに示した数に2ずつ増えていくというふうに御理解いただければと思います。詳しい部分につきましては、まだまだありますが、とりあえず大まかな部分を申し上げました。必要がありましたら、お尋ねいただければ御説明いたします。以上です。

事務局 御質問あれば、発言をお願いします。

委員 忽戸小の複式のところでですけど。平成25年度の1年生と2年生で複式になっていますが、2年生と3年生で合わせて11人なので、2年生と3年生で複式という選択肢もあるわけですね。

事務局 それは事前の協議ということになります。

事務局 他によろしいでしょうか。報告は以上です。

## 5. 議事

事務局 議長委任「傍聴人の入場よろしいでしょうか。」

委員長 許可します。

(傍聴人入場)

それでは、本日の出席委員数は23名です。過半数に達していますので、会議は成立します。第1号議案 引き続きのことですが、「千倉地区の幼稚園及び小中学校再編(案)について」議題といたします。事務局から何か説明はありますか。

事務局 はい。7月2日の第2回検討委員会終了後、事務局といたしましては、7月10日千倉地区地域審議会、7月30日千倉地区行政連絡員会議にて、再編案の説明をさせていただきました。また、前回検討委員会でも、最も保護

者の意見が重要である事から、各幼小PTA主催による千倉地区再編案についての保護者説明会を開催していただきまして、意見交換をさせていただきました。健田幼小は、来週9月3日に設定されていますが、その他の幼小の説明会は、終了いたしました。終了したところでは、それぞれアンケート等を実施しており、保護者の意見を確認しているようでありますので、できましたら、現段階においてのアンケート内容等についての発言をいただければと存じます。各幼小PTAから発言をいただいた後に、検討委員からの質疑としていただければと存じます。よろしく願いいたします。

委員長 事務局から話がありましたが、各地区で意見交換がされたようでございます。その報告をしていただけますでしょうか。それでは、七浦幼小、朝夷幼小、忽戸幼小の順番でお願いします。

委員 七浦小では、合併は1回でということで、意見がまとまり、全部の幼稚園を七浦小へ持って来れないかという意見が挙がっています。

委員長 それでは朝夷幼小、お願いします。

委員 朝夷幼小は8月2日に説明会があり、その後、アンケートをさせていただきました。大きな意見として、平成26年度の七浦、忽戸及び朝夷の3校で合併した後ですが、28年度に健田小へ1校に合併となる二段階に關しての反対意見が非常に多かった結果となっています。結論的には、28年度の健田小と3校との合併をせずに、2校並立で学校を存続していく案でどうかということでPTAの意見として多数を占めています。また、幼保に關してはそれぞれに付属するというような意見で大勢を占めています。中身の話、経緯はいろいろありますので、後ほど説明したいと思います。

委員長 忽戸幼小お願いします。

委員 忽戸幼小は8月9日に事務局から説明いただいて、8月23日に保護者の意見集約をして、まとめた結果としては、朝夷小と同じく、千倉は千倉町内として4校あるのを1校にするのではなく、2校にしてはどうかということでまとまっています。あと、幼稚園はその2校に付属するというので。その他、内容は朝夷小と同じようなことです。

委員長 それでは、今、ある程度、話し合った骨子が出て来ましたが、それらを中心にして、意見を言ったり、検討したりして進めていきたいと思っておりますので、その辺のところを質問があったら言っていただきたいと思います。2校の学校を残すというのが出ていました。その他アンケート取ったところもあります。それぞれ自由に発言していただいて、その中から何かまとめられるものがありましたら、まとめていくということでどうでしょうか。

委員 私、当初は一校でという話をしましたけれども、その中で複式学級が忽戸と七浦で生じるということで、それを解消することが一番だというお話があ

ったわけですが、今、忽戸小と朝夷小のPTA会長から申し上げたように、七浦、忽戸及び朝夷で合併しても複式学級は解消出来ると思います。生徒数で比較しても、現在、3校で合併して227名、健田小は204名。30年度にいても、3校は169名、健田は163名。市内の小学校と比べても、その辺で全部平均的に落ち着くと思うんですが、2校ということではいかがでしょうか。

委員長 2校で数字的に見ていったら、複式にはならないだろうからどうだろうかという意見です。他には。

委員 先ほど、教育長から学年2学級というお話がありましたが、千倉を除いた他の地区でも全部2学級にはいかないですよ。そう考えれば、何で千倉だけと1校にしてしまうのか。PTAの方で話があったように、子供のために考えて意見が出たと思うんですが、その辺をもっと考えていただきたいと思います。

教育長 なぜ千倉だけとありましたが、千倉だけではありませんので。先ほど、挨拶の中で申し上げた、丸山と和田につきましては、旧町村の枠組みで1校ずつ残しますと、それぞれ学年単学級の学校が丸山に1つ、和田に1つ出来るということで、富山小学校と同じ10kmぐらいの通学距離と時間ですので、4校合わせた形の2学級を作っております。富山小学校につきましては、平群小学校と岩井小学校が統合して、通学距離が10kmになります。例えば、隣の富浦町と統合しますと通学距離がかなりものになってきます。これは小学生や幼稚園生では難しいだろうということで、富山地区につきましては小学校同士で数を多くすることは、ちょっと不可能なので、小中一貫ということで、保育所、幼稚園、小学校及び中学校を同じ敷地の中で教育を展開していく形で数を多く求めておりますので、考え方としては、一定規模の子供の数がいる中で教育を展開したいという、そういう思いでやっておりますので、その点については、千倉だけがというわけではありませんので、御理解いただきたいと思います。

委員長 他にどうでしょうか。

委員 私は七浦学区の委員として、7月30日の説明会に出て、聞いていたんですが、今、七浦幼小のPTA会長が言っていたように、おおむね合併は児童が少ないからしょうがないだろうと、でも、2回にするのは子供に負担もあるし、という意見が確かに多かったです。それと、七浦小学校は千倉で2番目に新しい、木のぬくもりのある素晴らしい校舎ですので、そこから幼稚園が移るのかという意見がずいぶんありまして、教育長はどうして朝夷なのかの説明が「道路が広いから」と。「そんなことはないだろう」と皆、言っていました。よく調べて説明しないと、私はいけないと思います。それと、幼

稚園の合併は七浦を使えば財政的に良いのではないかと。七浦小は10億近くかかっていると思います。ある区長からそのような話もありました。それをそのままにしないで使うことが、市の財政を考えたら、良いのではないかと私もそう思います。朝夷小にした理由が、かなり大ざっぱで、朝夷にすれば他から問題は出ないだろう。七浦と忽戸は捨てられたんだらうという意見もあり、私が考えるには朝夷小が一番古い校舎だと思いますが、そこを3階建てに幼稚園が入るのかというような意見がかなりあります。ですから、七浦幼小PTA会長が合併は1回にしてもらえれば、どこでもいい、健田でもしょうがないというような、通学とか、もろもろのこともいっぱい出ましたが大勢とすればそれで、できれば、財政のことを考えたら、幼稚園を七浦小に持ってくれば、一番安上がりというか効率的になるのではないかとこの話が結構出ました。

委員長 他にどうでしょうか。意見交換をしていくということにしていきたいのですが。

委員 結果的に町内で2か所の校舎を使っても良いという意見が今出ているんですが、その線で話を進めていってもいいんですか。それとも、やっぱり28年度から健田1校にした方が良く、委員会の案ですけど。どうなんですか。

教育長 幼稚園だけの問題じゃなくて、幼保一体施設をつくっていくということで、その中で今年、幼稚園の富山、富浦、三芳及び千倉の朝の預かり保育ですね。幼稚園は午前9時から始まります。午後2時か2時半くらいに終わるわけですけど、午前9時に始まる前の1時間半程度、それと、午後2時か2時半に終わった後の午後6時まで、両方の預かり保育を展開しています。それを、保育所と一体にして、もっと柔軟に対応できるような形をつくっていききたいということで、幼保一体施設を旧町村あるいは丸山・和田につきましては、2つの旧町で1つということ考えております。幼稚園だけではなくて、保育所も一体化して付いて、それが2つということになりますと、預かり保育等のサービスが可能かどうか、財政的にもかなり負担が大きくなりますので、少なくとも旧町村では幼保一体化施設については1つということ想定しております。

委員長 よろしいですか。

委員 はい。

委員 そうしますと、幼保一体施設をつくるために小学校を1校とすると。

教育長 いえ、小学校につきましては、先ほど申し上げたように、可能であるならば学年2学級の学校をとのことですので、当然、千倉についても1校ということ考えております。丸山・和田については旧町それぞれではその体制が出来ないので、旧町を越えた枠の中で2学級が可能だということ提案して、

その方向で御理解いただいています。ですから、千倉についても当然、通学距離とか可能ですので、先々を考えると1校がよろしいというのが私どもの考えです。

委員 その件に関して、当校の保護者から、保護者に1校が良いか2校が良いかのアンケートを取らせてくれないかという意見があるんですけど。それは取ってもよろしいですか。2校でも良いのではないかという意見が出て、保護者の意見を集約して、保護者の意見が1校で良いならば1校でも良い、2校が多ければ、そっちの方で進んでくれないかという意見があるんですけど。それを七浦、朝夷、健田の保護者で統計を取っていただけないかと。それで、2校にするか、1校にするかを話をしたらどうか。

委員長 アンケートのことだけで決めるというわけではありませんが、そういう意見があることを集約するというのは、やっても良いと思います。

委員 アンケートを取って、2校でやるのが多数であるならば、市の方としては2校でやりましょうという話になるのですか。

委員長 それは、ちょっと私ではわからないんですけども。意見は意見として聞いて。

教育長 単位PTAでそれぞれの意見集約をするための方法の一つとして、アンケートを取られるなら、それはそれで結構だと思います。ただ、そのアンケートを取って、多数だからその方向でということは、また問題が違うのかなど。2校が良い、1校が良いと言っても、理由はそれぞれ違うと思います。できれば、こういう会議を開いていますので、この会議を経て、最終的には議会の承認をいただくわけですので、アンケートを取って、絶対多数だからこの方向でというのは、この会議を進めていくあり方としては、どうかなど。あくまでもそれぞれの立場で、PTA代表だけでなく、区長さんとか学識経験者とか学校代表も出ておりますので、そういった方々が5年先、10年先を考えて、御意見を出していただいて、この会議で一定方向にまとめていただくのが、私どもとしては一番よろしいかと。そういうような形を望んでいます。

委員 今回の教育長の話聞いてですが、この会議の結論は誰が出すのかとなりますと、議長が出すのか、教育長を含めた教育委員会が出すのか、それとも、今日まで呼ばれている委員の間で出すのか。委員で出した答えがその答えということでよろしいのでしょうか。

委員長 検討委員会ということですよ。この編成に関する検討。一つの教育に関する方針として、審議をした上で、こういう会に出されたわけですけど、この会というのは、皆が2校にした方が良いという意見になったから、数が多いからこれで決定という、それだけではないと私は思います。どうしてかと



いうと、やるべきことの方向性を決めて、審議をしたものがここへ出てきたのだらうと思います。それは教育関係や行政関係を総合して作って、案を出したんだと思います。予算を伴ったり、いろんなことがあるわけですから、この会の中で決めるというのは、ちょっと不可能かと議長として私自身は思います。これから先の教育という視点で、どういうふうにしていったらいいかという意見討論をしていくところだと思いますけど。こういう方向でこういうものをつくろうとか、こういうふうにしようとかの決定を我々、選ばれた人たちでやるべきことかなと私は思いましたけど、どうでしょうか。直せないというわけではなくて、一応、やれるものと、やれないものがある。それらをきちんと精査していく機関ではないでしょうか。

委員 やれるものとやれないもの決定は、誰がどこで選定するんですか。

委員長 それは教育委員会じゃないですか。

委員 教育委員会が最終的には結論を出すということで、我々は呼ばれているわけですね。

教育長 結論の出し方について申し上げているので。アンケートを取って、多数だからそれだというのを端的に決めていくのは、ちょっとこの会議に馴染まないのかなと思っています。この会議で十分議論していただきたいと思います。2校案というのがあります。確かに学年1クラスずつの学校が2つ出来ます。では、その先、さらに、少なくなっていく時にどうするのか。私どもとしては、10年後、20年後を見据えて、財政的な裏付けをもって対応できるのは、この時期かなと思って考えております。ですから、これで、今、幼稚園と保育所をどうするのかということも、私とすれば聞きたいわけですが、皆様方に議論していただく会議ですので、私の方からは申し上げませんでしたけど、2校体制にして、幼保一体施設はどうするのかと。幼稚園と保育所を2つつくって、給食施設も付ける。私どもの今の財政的な状況だと、それはちょっと議会等にも説明がつかないかなという、そういう思いもありますし、その辺も含めて皆様方で議論をして、一定方向の結論を出していただいて、それで私どもに意見具申という形でいただけるものと思っております。

委員 この前、忽戸小の説明では「財政ではない」と「複式解消のための合併である」ということで。

教育長 今、私が財政的なことを申し上げたのは、4校あって大変だから1校にするとかそういうことではないということです。新たに、給食施設を伴った幼保一体施設を例えば2つつくるとなると、今の財政状況、これから財政的に非常に厳しくなっていく状況の中で、果たして、それは理解していただけることなのかなということを今、申し上げているわけです。

委員           それが、もし2校体制になった時に、幼保一体施設を1か所にまとめるということは可能ですか。

教育長           それはそうしていかなくてはいけない。

委員           今の話の中で、押さえておかななくてはいけないことは、議会の同意を得て、学校の設置条例を作ったり、子供たちを入学させるためには父兄が希望して行くのではなくて、学校長の入学の許可というのが必要になってくるわけです。皆さんの気持ちはよく分かるんですけど、ある程度、公けの方で、学校はいくつにしたいとか、あるいは入学を許可しますという作業は公けの方にあるということだけは、まず押さえておかないといけないんじゃないかなと。保育所にしても、一般的には保育に欠けるということで、誰もが保育所に行く話ではないので、子育てのためにどうしても勤めながら保育をすることが出来ないから保育所に行く、幼稚園についても同じだと思います。ただし、千倉の場合は就園率というか、全部、ほとんどが幼稚園へ上がって行ってますけど、必ずしも皆、幼稚園に行かなくても良いような状況の中で制度的にはあると思うんで、その辺を勘案して1つにするのか、2つにするのかというのを教育長が今、答弁したのではないかなと思うんですけど、ある程度、どこかのところで落とすところがないと難しいかなと。アンケートの結果で、何が何でもアンケートどおりにやっていただきたいということではなくて、全体的な意見としては忽戸小学校のアンケートはそういうふうなものだと。単純平均では7割ぐらいは、先ほど会長が言ったような意見に集約されたとしても、他にも学区があるわけですから、それは加重平均といいますか、それぞれの健田の意見、あるいは七浦の意見というのをそこへ織り交ぜて、単純平均でなく、加重平均した数値を出すというのが必要になってくるのではないかなという気がします。

委員           市の方針としては、今ここに提示されているこの方向を維持していくんだということでしょうか。

教育長           私どもとしては28年度には1校、幼保一体の施設も旧千倉町に1つ。そういうような形を想定しています。それが一番良い形ということで私どもは考えて提案しております。統合の仕方については、皆様方、いろいろ御意見あるかと思いますが、今ある施設を使ったり、幼保一体施設を何とか早くつくらなくちゃいけないとかそういうことを含めて、28年度に4つの小学校が1つでスタートするというのが、幼保一体を含めて、一番良い案だと思って提案しております。

委員           ちょっと言い方は悪いんですが、世論がどうであっても市の方ではそういう方向で進めますということなのではないでしょうか。

教育長           私ども、何度でも説明申し上げます。

委員 議員さんはオブザーバーとして来られていますが、最終的には議会で決定を受けなければいけないということで、今までの意見を聞いた中で、議員さんの立場としては、どういうふうに思われるのか聞いてみたいんですけど。例えば、保護者からアンケート取ったり、反対があった時にその辺をどういうふうなことで市政に反映していただけるのか、ちょっと聞いてみたいんですけど。

委員長 どう思っているかっていうことですか。

委員 最終決定機関、議会で決定をいただけるということですよ。それを踏まえた中で、オブザーバーで来ている議員さん方は千倉町の学校再編の方針が出た時にどういうふうな感じを持たれたのか。市が決めたからそれでいくのか、ちょっと待ってくれというような方向性なのか。

教育長 私は議会の方でということで申し上げましたけれど、私の立場とすると、千倉町在住の議員さんがいらっしゃいますが、その方たちだけから賛成のいただける案は出せないということですね。

委員 ちょっといいですか。皆の前で言うのは、議員さんは、なかなか難しいという気がします。

教育長 誤解がないように申し上げれば、例えば、今までにも他の地区で再編してきているわけです。それで議会にかけて、議員さんの賛成をいただいています。千倉地区の再編も他の多くの議員さん方から理解がいただけるような内容で私どもは出さなくてははいけない。

委員 それはわかります。ただ、オブザーバーとして、この会に来られているので、どう思うかってことを聞きたかっただけなんですけど、それは待てと言うのなら、聞かなくていいです。わかりました。

委員長 この前の会議の時に、どなたか「我々はオブザーバーで何も言いませんよ」という話をしたと思います。それはオブザーバーでどういうふうに皆が考えているかを議員さんは議員さんとして捉えるだろうと。それは議会の中で決めることで、自分の信念でものを決めることだと思う。ここでその意見を聞いたところで何も私は出てこないと思います。それはそれで、我々が話し合えば良いわけで、いろいろ出してもらって、その中で良い方法を見つけ出していくしかないと思います。

委員 先ほど、忽戸幼小PTAから2校にする案が出ましたが、私は前回の時に、2回目にして、1回目は2校以下というようなお話、2回目は1校と出ましたよね。これが、どこそこに合併するとか説明の根拠もないのに、案が出たら独り歩きしてしまうということを質問したら、副委員長が中に入って「これは叩き台です。」と。教育長も「これを基礎にしてもらえば。」ということを行いました。ということで、別に忽戸小、朝夷小、どこでもアンケ

ートを取っても良いんじゃないでしょうか。あと、これは何で決めるかというのが出ましたけど、どうなんですか。教育委員会から出たものは勝手にやれば良いというのが我々の考えなんですよ。地区に持って帰っているいろいろ意見出しても、何にも吸い取らないのでは、何もならないという意見なんですけど。教育長はいかがお考えですか。

教育長 おっしゃっていることが、ちょっと。

委員 意味が分からないですか。この前の会議で、案が急に出てきて「これは叩き台です。」という説明があって、これをまた地区に持って帰ってとか、七浦小と忽戸小の意見も大事にしたいとか、会議録にも載っていますけど、それは口先だけですかね。出てきた案は絶対決めるんだというのであれば、こういう会議も別にいらないし、財政的、財政的と言いますけど、七浦とすれば、10億ぐらいかかった2番目に新しい校舎があるのに、何で一番古い校舎を改築するのかという意見も結構ありました。叩き台だから、アンケートとかは各地区でやるのは構わないんじゃないですか。そのために説明会をやっているわけでしょ。

委員長 アンケートをやることについて、駄目だということは誰も言っていない。アンケートをやったから、アンケートでこう出たからこうでしょというのがこの会議としては出来ませんよと。

委員 それは、この中の意見という分には差し支えないし、他の学校もそうなった場合には、また考えなくてはいけないと思いますけど。要するに、2回目で1校という案が出てきて、「これは叩き台です。」と会議録にも載っているわけですよ。その叩き台を元に各PTAで説明会をやって、意見集約をしたみたいですが、その辺は良いんじゃないかと思うんですけども。これでいくなら、これでいけばいいんじゃないですか。ただ、学校がどうのこうのというのは反対のところ結構あるかと思います。

教育長 アンケートについては、委員長がおっしゃったように各単位PTAが保護者の意見を集約、あるいは把握するためにやるんでしたらということですけど、それはやっていただいていると思いますし、私どもの方でやってはいけないというものではないということです。それ以外に地区全体にアンケートをかけることは考えていませんし、お話したかもわかりませんが、皆様方は委員という立場で出ていらっしゃっていますので、それぞれの見識とか、そういったもので、10年先、20年先を考えて、御意見いただいて、最終的にこの再編検討委員会で一定の方向を出していただければと思っております。

委員長 どうですか。よろしいですか。

委員 2校の案が2つの学校で出たので、それを検討したらいかがですかというのが委員長の意見なんですよ。議案が今日は別がないから、各地区から出

てきたものを検討しているわけですよね。それで忽戸と朝夷は2校にしたらいいのではないかという意見があったと。健田が3日というのは、聞いて承知してますけれども、この意見を皆に聞くことが、今日の会議なんですよ。

委員 委員長が言ったのは、その結果について質問があればというのが、そもそもの出発です。質問があればと言ったんですけれども、最初にA委員が意見を申し述べたところから少し、そちらの方へと議論が進んでいるようです。

委員長 今日は、第2回の結論は出ていない、まとめられないから、皆でそれぞれの地区に説明に行ったり、いろんな意見を聞いて、第3回をしましょうと第2回は終わった。今回は各地区でそういう説明会があったりしたので、私が委員長として考えたのは、説明会等に出てきた事柄について皆で決めようというのではなくて、フリートークで意見を交わしたらどうかということを進めているつもりなんです。一つの方へ持っていこうというわけではなくて、そういう考えがあるということをお私だけではなくて、審議をして作ってくれた教育委員会の方向へ、どう伝わって行くかは別として、それをここで検討していく会にしたいと思っていたわけです。ここで決めるのか決めないのかではなくて、自由に皆で話し合うと。私は、この委員長を受けた時に最初に申し上げましたが、教育問題というのは今、現在あることだけで考えることではないということをお断りしたような気がします。それは何なのかといたら、教育100年だと思えます。今やったものは100年後でないと結果は絶対出てこない。明治にやったことがやると日本の経済成長になったと言われるくらいに、そのものが段々変ってきて、今の社会も変わってくる。そういうことから考えれば、何がモラルで教育が始まるのか。学校って何なのか。大きく言えばそういうことではないでしょうか。ただ「その方が便利だから。」「その方が都合がいいから。」「その方が生活しやすいから。」という視点だけでものを考えてはいけないんじゃないかと私自身は思います。したがって、皆の意見を聞いて、皆の意見を出し合って、そして良いものをと申し上げたのは、そういう考えからですが、そういう形で検討していくのが一番良いと思います。

委員 先ほどより、検討、検討と言われていますが、その検討した意見はどこに行くんですか。

委員長 それは、教育委員会ですね。

委員 でも、聞いていると、この案でいくような雰囲気じゃないですか。皆、そうやって思っていると思いますよ。そういう雰囲気の上に、委員長が検討と言われても、皆、だまっちゃっているんじゃないんですか。

委員長 今、やっているのは、案について、皆が納得いかないというか、いろいろ意見があったり、地域におろさないといけないということでおろしたんです。

3回目で検討することは、今まで出た基本と違うものがあるなら、違うものをきちんとしなくてはいけない。それが出来るのなら、そういう方向へ持っていかななくていけない。それは分かっています。先ほどから私が断っているのは、今、発表してくれた中であって、そうかなと思うものもあります。それを検討して行って、そして、どうしていくのかという、次の段階に行くしかないと思います。

教育長

最初はアンケートやるのはどうですかということですから、単位PTAごとに意見を集約する必要の上でやるというのであれば、それはそれでとお話しました。私はいつもその手法でいくのは、馴染まないかなと思っています。例えば、B委員から「七浦小学校を幼稚園で使ってはどうか」という意見が出ました。それは、私どもが否定するというものでも何でもありません。ただ、B委員が七浦小を新しい幼稚園・保育所の施設に使ったらどうかという意見を皆様方で議論していただければいいことであって、ただ、その時にアンケートは馴染まないというのは、そういうものが出た時に、その度ごとに、七浦小学校を幼保一体施設に使うことについてどういう意見だと、持ち帰ってアンケートを取るとか、そういうことはちょっと、この会議を進めていく上で、合理的ではないという思いもあります。ですから、元へ戻していただければ、アンケートを単位PTAごとに取り必要があるのなら、意見集約の1つの方法として、それは考えられることだと思います。あと、私ども決まったことを押し付けるのではなくて、皆様方から今、意見が出ました。2校案も出ましたし、もっと具体的には、七浦小学校の跡地を幼保一体施設、保育所まで言いませんでしたが、幼稚園として使うということも出ました。そういったことについて、皆様方がどんなふうにか考えるかということで議論していただいて、委員長が言った、検討、協議をしていただいて、一定の方向の結論を出していただければと思っています。

委員

最初の3月8日の会議の時には千倉地区においては、学校数を半数以下にするとありましたが、半数以下ということは2校でも良いということだったと思うんですが、その会議の中で、生徒数から見ても、1校でも良いのではないかという話も出たと思います。けども、1校にしましょうという結論はその時、出なかったですね。今、教育長さんの話を聞いていると、先のことを考えれば、教育面で1校が良いんだと。いつの時点から、それが1校になったのか、そこのところ説明が足りないから、いろんな意見が出るのではないかと思うんですね。案の話の進め方に、ちょっと皆さん方不満があるんじゃないかなと思うんです。結局、こういうわけだから1校でいきましょうということを皆さんが認識した上で、その上で1校にした場合はどういう方法で通学したら良いのか、どんな施設をつくっていったら良いか、そう

いう議論を進めていくことだと思うんですけど。まだ皆さん方が1校にしましようという認識を持っていないから、そういう話が出てくるのではないかと思います。

委員

私の記憶では、そういう話があったんですが、それでは改めて教育委員会から提案しましょうということで、健田小学校1校という話になったと思います。教育委員会の方からは提案しますというのが、28年度に1校という案ではなかったかと私は記憶しているんですけども。その時点で、この会議全体の雰囲気としては1校に教育委員会の方からは提案があったと。28年度にはそうやりますと。ただ、過渡期の26年には七浦、忽戸は朝夷に持ってくると。それで、28年には1校にしたいという提案があったことに対して、それぞれのPTAが持ち帰って、「教育委員会のその1校の案は駄目だよ。」と「朝夷小学校は朝夷小学校でいってもらいたい。」という意見が今日なされたというふうに理解していますけど。

委員

そうですか。

委員長

今日渡された第2回の会議録の18ページの下の方です。私が最後の方でこれは確認しましょうと言っているところです。「もう一度検討して、大事なことを拾い上げて、次の回に出したいと思います。ここで確認しておきたいことは、何度も意見が出てきましたが、方向性としては小学校を28年度には統合するという。それから、29年度に幼保一体で朝夷小を改修して、そこへ移ると。この2点については、この方針で行くと。ただし、そこまでの間にいろんな意見が出てきて、これはきちんとしておきたいと思いますので、御了承願います。検討委員会としては次回はそういう方向を説明して、皆の意見をまたここで聞いて、そして次の段階へと」そういうことからいうと、先ほど、出てきた事柄に学校を2校にしたらどうか、あるいは幼稚園をどうしたらいいかというのは、そういうところから出てきた問題点だと思います。これらをどう検討していくかというのが、これからの問題になると思いますが。今日は意見を出していただいて、その中から検討するしかないのではないかと委員長としては思っていたんです。そういうわけで方向性というのは、第2回の時に確認したことだと思います。そうすると、もう決まっていたのではないかとされるかもしれませんが、その2点についてはそこで確認をしたということです。それでは5分ほど休憩します。

(休憩)

委員長

時間が来ましたので、再開したいと思います。いろいろな意見等が出て参りましたし、いくつかの提案みたいなものもありました。ここではなるべくいろいろと想定されることをたくさん出していただいて、検討できるものを検討していくという方向でいくしかないかと思いますが、何か重ねて話しを

しておきたいことがあれば、お願いします。

委員 朝夷小の案として結果は2校で、幼保についてはそれぞれに置くという意見がありましたが、その意見について集まった人たちが出した経緯を説明させていただいてもよろしいでしょうか。

委員長 はい。

委員 まず、重複しますが、今の合併案では、日程も忙しく、最初の段階で忽戸、七浦の児童が健田小に流れてしまうと思われる。それで、朝夷だけが残って、偏った学校が出来てしまうという意見が出ました。それと、委員長の言う100年、200年の教育に反するんですが、両方の合併に絡む子供たちにあまりにも配慮がない。我々も一つの時代を卒業した卒業生として、母校というのがありますが、そこに対しての配慮が全くない。その子供たちの母校はどこになるのかとなってしまいます。それと、1校の案でいくと、幼稚園から中学校まで、ずっと一緒の仲間が上に上がっていくと思いますが、そこから2クラスにするということで、教育長としては、それを進めていきたいということだったんですけど、2クラスになって良いことだというふうには聞こえるんですけども。そこについては、2校で学校をやっている、中学に進学する際、他の所から集まってきて刺激になる。その刺激というのが、この年代の子供には大事なことじゃないだろうかという意見。また、合併してもこの2校の規模であれば、学校行事において、生徒それぞれに役割をきっちり与えられて、自分の子供がこんなことが出来るんだという場所が様々にある。人が増えてくると、そこが、なかなか出来なくなってくるのではないかな。だからその辺はいいこともあるという意見。あと、町の合併もそうですが、1校になってしまった後に、やはりまずいという点が起きた時にはもう元には戻れない、2つにはもう戻せないという意見。あと、健田小と七浦小の距離もちょっと離れ過ぎていて、スクールバスで通うとなった時にいろんな弊害が出てくるのではないかなという意見もありました。それと、質問ですが、健田小を造る時の補助金の関係で、10年間は小学校として使わないと補助金を返還しなければならないとか、あと、市の約束事、決まり事で、これからは海拔15m以下の所には公共機関を置かないという決まり事があると伺ったんですが。その2点について、お答えいただければと思います。

委員 補足しますが、3学校合併して、朝夷小学校の校舎という話も当然、出てたと思うんですが、校舎の造りですか、海拔の問題、3階まであるので、おそらく健田小と同等くらいの高さがあると思っておりますので、地域の地理的な配慮のことも考えさせていただいて、もちろん、どの小学校も合併した後も使っていただきたいという思いがあると思いますが、我々はそのもあって理由づけとしては考えさせていただいたところであります。



事務局            それでは健田小の交付金の縛りという中で、10年という縛りが確かに国の方から指示がありますので、小学校として建てている部分を小学校として使う分には目的外の使用にはなりませんので、それは認められているものだとということで理解してもらって結構です。それから、海拔については、健田小は24.5m、朝夷小は15.6mということで、市の消防防災課からの通知はあります。

委員              そうすると、15mに満たない所に、例えば、幼保の施設を置くといった場合には、最初からそれはもう無理だよという考えになるのでしょうか。

事務局            市の考え方としてはそうです。15mという一つの基準を設けていますので、それ以下のところにはなるべく投資をしたくないというのが市の考え方です。

委員              ありがとうございます。

委員長            朝夷幼小PTAでいろいろと検討したり、調べたり、あるいは意見を聞いたようでございます。何か他に。関連でも結構ですし。それでは、いろいろな意見が出てまいりまして、全部まとめられるわけではございませんが、そういう意見がたくさん出てきた事が大切な会議だと思いますので、その中から今後どういうふうにしていくのか考えたいと思います。今後、それぞれの保護者会があったら、事務局へと連絡していただいて、保護者に話が出るような機会をたくさん作ってもらおうと大変ありがたいと思います。今日、出てきた意見は、健田幼小PTAの説明会が済んでいまして、今の段階では、どうするか判断は難しいので、次回も引き続き、検討していくという形にしたいと思います。よろしいですか。先ほども言いました方向性というのは、くどいようですが、28年度に統一の小学校をつくる方向性と、その次の29年度に幼保が一緒になる方向性だけはしっかり掴んでおいていただいて、討論しまして、これで修正が出来る、他の方法論が取れるということであれば、期間的なものもあるかと思いますが、特に保育所の海拔4mとありましたけど、これは早くしないといけないという意見があるそうです。もし、地震が、あるいは津波がということの問題があるので、それらと関連しながら、ここに提案されているのは、そういうものを全部考えて出てきたものだと思いますので、それらを頭に入れて、必ずしもそうでなければならぬということではないと思いますが、そういう方向を頭に入れておいていただければと思います。それでは、検討についてはこれでよろしいでしょうか。続いて、次回の第4回検討委員会の日程について、事務局から説明願います。

事務局            次回、第4回検討委員会の日程ですが、来週に健田幼小PTAの保護者への説明会を予定しています。その意見集約ということもあろうかと思えます。できましたら、9月のうちに第4回を開きたいと思っております。

委員 9月はPTAバレーもあり、意見集約にも時間がかかるため、9月は厳しいかと。できましたら、10月にやっていたら。

事務局 それでは日程につきましては、10月を予定させていただきます。については委員長、副委員長との調整を図りながら、また、再度、御案内させていただきますので、それによろしくお願ひしたいと思ひます。それでは委員長お願ひします。

委員長 議事を終了します。傍聴人の方は退席を願ひます。事務局から連絡事項はありますか。

事務局 特にありません。

委員長 それでは、第3回千倉地区学校再編検討委員会を閉会します。